

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：12703
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：17H02230
研究課題名（和文）開発の時代の国家建設：東南アジアの国家形成再考

研究課題名（英文）Reconsidering State-Building in Southeast Asia

研究代表者

白石 隆（Shiraishi, Takashi）

政策研究大学院大学・政策研究科・名誉教授

研究者番号：40092241

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,410,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンの開発主義体制をこれら諸国における長期の国家形成の一局面と捉え、開発主義体制の編成とその基礎にある構想を明らかにすることで、これら4国の国家形成の特徴をそれぞれに個性的な経験として浮き彫りすることを目的としていた。本研究では主に、政治家や行政官、実業家などに対するインタビュー調査を通じてこの目的を達成することを目指した。その結果、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア各国における1980年代以降、現在に至るまでの開発政策の展開と国家形成とのかわり、開発政策にテクノクラートが果たした役割などについて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて得られた成果の意義としては、1980年代から現在に至るまでインドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアの国家形成と開発政策に実際にたずさわった政治家や行政官のインタビュー記録が得られたことが挙げられる。とりわけスシロ・バンバン・ユドヨノ元インドネシア大統領に合計25時間以上にわたってインタビューをおこない、記録として残すことが出来たことは、本研究だけではなく今後、20世紀から21世紀初頭にかけての東南アジア地域の国家形成や開発政策を対象に研究をおこなう研究者に対して大きな学術的貢献があると言える。

研究成果の概要（英文）： This study aimed to reveal the specific features of state formation in Thailand, Indonesia, the Philippines, and Malaysia by analyzing the developmental regimes as one phase of long-term state formation processes in these countries. More specifically, this study aimed to clarify the fundamental strategic ideas to organize developmental regimes in these four countries. To achieve these goals, this study mainly conducted interview research on politicians, technocrats, bureaucrats, and businesspersons. As a result, the study revealed the concrete processes of development policies in Indonesia, Thailand, the Philippines, and Malaysia from the 1980s to the present, their relationship with state formation, and the roles of technocrats in development policies.

研究分野： 地域研究

キーワード： 国家建設 東南アジア 開発主義 比較研究 地域研究 オーラルヒストリー

1. 研究開始当初の背景

本研究参加者の多くは新学術領域研究「新興国の政治と経済発展の相互作用パターンの解明」(代表者：園部哲史)に参加し、新興国の国家建設と経済発展を長期の国家形成プロセスの中に位置付けるとともに、東アジア、東南アジア、中東、アフリカの4地域における国家建設・経済発展の地域間比較を通じ、新興国の国家建設・経済発展のパターンを理解する上で、いかに地域の構造と秩序が重要であるかを明らかにしつつある。この研究のプロセスで明らかになったことの一つは、新興国の国家建設・経済発展における政策決定の重要性、あるいはもっと具体的に言えば、戦略的決定を行った政治家、行政官の役割に焦点を合わせた研究の必要性である。もう一つは、開発主義体制を体制論の観点から比較分析することに加え、政策論として、つまり、所与の歴史的条件下、政治的安定と経済発展を同時に達成する戦略として、目的・手段系列の観点から開発主義体制を理解することの重要性である。

幸い、1960-70年代の東南アジアについては、米国、英国、オーストラリア、日本などの政府文書がすでに公開され、オーラル・ヒストリーも合わせ、一次資料に基づいた実証的な研究が発表されつつある。オーラル・ヒストリーの例としては、Ginandjar Kartasasmita (2013), *Managing Indonesia's Transformation: An Oral History*, J. T. Almonte (2015), *Endless Journey: A Memoir*, J. P. Enrile (2012), *A memoir* などがある。また、実証的な研究としては、Gerardo P. Sicat (2014), Cesar Virata, *Life and Times: Through Four Decades of Philippine Economic History*, Daniel Fineman (1997), *A Special Relationship: The United States and Military Government in Thailand, 1947-1958*, Phimmasone Michael Rattanasengchanh (2012), *Thailand's Second Triumvirate: Sarit Thanarat and the Military, King Bhumibol Adulyadej and the Monarchy and the United States, 1957-1963*, Barry Wain (2012), *Malaysian Maverick: Mahathir Mohamad in Turbulent Times*, John Subritzky (2000), *Confronting Sukarno*, Vedi R. Hadiz and Daniel Dhakidae (2005), *Social Science and Power in Indonesia*, John Roosa (2006), *Pretext for Mass Murder*などをあげることができる。

本研究プロジェクトは、こうした一次資料と実証的研究を最大限利用しつつ、所与の歴史的条件下、一定の支配集団が内部に対立と競争を抱えつつ、政治的安定と経済発展を同時に達成するため、いかなる戦略の下、いかなるかたちで開発主義体制を編成し、それが経済の発展と世代の交代の中、どのような戦略の変更と体制の変容をもたらすことになったか、そして、21世紀の現在から振り返ってみて、こうした歴史的事象としての開発主義体制はタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンの国家形成においてどのような意義を持つものかを考察することとしたい。

2. 研究の目的

本研究は、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンの開発主義体制をこれら諸国における長期の国家形成の一局面と捉え、開発主義体制の編成とその基礎にある構想を明らかにすることで、これら4国の国家形成の特徴をそれぞれに個性的な経験として浮き彫りにすることを目的とする。

開発主義体制、developmental states についてはすでにきわめて多くの政治学的、政治経済学的研究がある。本研究プロジェクトはそうした研究にまた一つ、新しい研究を付け加

えることを目的とするものではない。これは二つの点について言える。

第一に、本研究プロジェクトは、複数の開発主義国家体制を比較して、「開発主義国家」の誕生と成長と成熟と崩壊についてなにか、一般的な命題を提示することには関心がない。本研究プロジェクトの目的は、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンの国家形成につながる政治、政策決定として開発主義体制成立の歴史過程を再訪し、それがこれら4カ国の国家形成の中でどのような意義を持っているかを考察することにある。

第二に、1960-70年代の東南アジアについては、近年、米国、英国、オーストラリア、日本等の政府文書、オーラル・ヒストリー記録の公開もあって、一次資料に基づいた実証的研究が次々と発表されている。その結果、すでにこれまでに明らかとなった知見に加え、支配集団内における意思決定プロセス、機構再編、エリート養成、治安維持・経済開発・外交安全保障政策などの基本にある戦略について、はるかに良く理解できるようになっている。たとえば、1965年から1980年代後半まで、スハルト「新秩序」体制の「背骨」をなしたのは治安秩序回復司令部（Kopkamtib）指揮下の国軍戦略情報部と陸軍領域管理機構だった。この機構整備のため、スハルトは陸軍機構の再編と将校人事を組み合わせ、ライバルを排除するとともに、国軍将校が年次とともに、次第に昇進し、機構を運転し、退役し、大臣、知事、局長として「天下る」システムを構築した。これはよく知られている。

しかし、こうしたシステムにはすでに1970年代初頭から、士官学校、指揮幕僚学校の教育改革、さらには米国のIMET（国際軍事教育訓練プログラム）も利用してきわめて体系的に、次世代の国軍将校をプロフェッショナルとして養成するプロジェクトが組み込まれていた。これは研究代表者（白石）が現在実施しているユドヨノ元インドネシア大統領のオーラル・ヒストリー・プロジェクトで、はじめて明らかになった。あるいはインドネシアとフィリピンでは、すでに1960年代からインドネシア大学経済学部、フィリピン大学経済学部がテクノクラット養成機関と位置付けられ、ここを卒業し、アメリカの大学で大学院教育を受けた教員が、講師、助教授のときから政府の経済政策プロセスに関与し、システムティックにテクノクラットとして養成されるシステムが形成された。これはフォード財団文書、ギナンジャール元インドネシア経済・金融・産業担当調整大臣、セザール・ヴィラタ元フィリピン首相のオーラル・ヒストリー記録で明らかとなった。

ここに見るように、本研究プロジェクトでは、近年の実証的な研究を踏まえ、また、すでに公開された政府文書、オーラル・ヒストリー等を参照し、開発主義体制についてのこれまでの政治学的・政治経済学的研究の知見も踏まえ、1960-70年代の体制転換が、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンにおける長期の国家形成においてどのような意義を持っていたかを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は文献サーベイ、現地での調査、データ収集、資料、データの整理・分析、定例研究会での調査結果の検討・共有、成果の公開・発信を通じて遂行された。このうち、中心となる現地調査は、文献サーベイを踏まえ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイの公式・非公式文書、マクロの経済データ、各種回顧録などの収集・分析、政治家、官僚、実業家等、各国の政策コミュニティに入っていた人々へのインタビューなどであった。また必要に応じて、アメリカや日本でも資料の収集やインタビューを実施した。研究分担は、代表者の白石が研究統括とインドネシアを担当し、研究分担者の Khoo Boo Teik と鬼丸武士がマレーシア、Caroline Hau と高木佑輔がフィリピン、相沢伸広がタイとインドネシアの研究をおこなった。

4. 研究成果

本研究の主要な研究成果としては、以下の3点が挙げられる。

- (1) 本プロジェクトではインドネシアのスシロ・バンバン・ユドヨノ大統領（2004-2014）を25時間以上にわたってインタビューし、記録を編集、あと一回、追加のインタビューを実施して出版に回す予定だった。しかし、2019年に大統領夫人が亡くなり、2020年にはコロナウィルス感染症危機が始まったため、追加インタビューはたびたび延期となり、大統領のオーラル・ヒストリー・プロジェクトはなお完了していない。その間、大統領とのインタビュー、これを補足する他要人とのインタビュー、文献調査に基づき、インドネシアの国軍と政治、開発政策とテクノクラットの役割、隣国（タイ、マレーシア）との比較、長期のマクロ史的観点からのアジアと西欧の比較、ユドヨノ大臣が軍人としての経歴を過ごした1980-90年のインドネシアとそれを取り巻く国際環境等について一連の論文を取りまとめた。
- (2) フィリピンについては開発主義体制と国家形成の特徴の理解に努めた。フィリピン研究では、国家の弱さを強調する議論が支配的であったため、テクノクラートをはじめとする官僚や実務家に関心が向くことが少なかった。一方、本研究においては、経済テクノクラートや法律家などへのインタビューを通じ、フィリピンにおける国家建設を支える人々のネットワークを明らかにした。特に、政党の凝集性が弱いとされ、軽視されてきた政策当事者たちのネットワークが生み出す連合政治に光を当てたことが本研究の独自性とする。その成果としては、「21世紀フィリピン政治経済の変化と継続 連合政治に基づく一考察」と「フィリピンの政治課題と国家建設」を出版した。なお、後者については、2018年に原稿執筆を始めたものの、全体の原稿が集まってからの公表となったため、出版は2020年となった。原稿執筆から発表までの期間、鋭意議論を修正し、完成度を高めることに努めた。また、新学術領域研究の成果である *Developmental State Building: The Politics of Emerging Economies* においても、本科研の成果である開発主義体制の見直しに関する議論を盛り込んだ。
- (3) タイ、インドネシアの開発の時代の政治、そして国家形成について、1960年代の冷戦期における開発政治の導入期と、1998年の経済危機後の国家再編について現地での資料および資料収集を通じて明らかにした。とりわけ経済開発をめぐる二つの転換の時代において、インドネシアをタイと比較しつつ経済政策の転換期における国家機構の再編が、権威主義化、民主化双方が、最終的には多民族国家の国民統合を維持するための工夫として、実施されたことを明らかにし、憲法裁判所や国軍の役割に焦点を当て、
'Peace and Institution Building: Japan in Southeast Asia' in Tatsumi, Yuki and Pamela Kennedy (eds.) *Peacebuilding and Japan*, Stimson Center, 2017, pp41-49. や、「インドネシア憲法裁判所の生存戦略と政治参加」、玉田芳史編著『政治の司法化と民主化』晃洋書房、69-91頁。において発表した。また、同時にこうした開発政策の転換期における政治的安定の経験をより広域の地域戦略に応用する外交手法について明らかにし、「Beyond the Non-Interference dilemma: ASEAN and The Indonesian leadership on regionalism', *The Australian Journal of Politics & History*, Vol.65, No.2. 2019. pp412-429. として発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Khoo Boo Teik (ed.)	4. 巻 Vol.7, No.3
2. 論文標題 Divides and Dissent: Malaysian Politics 60 Years after Merdeka	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 269 - 491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Khoo Boo Teik	4. 巻 6 - 2
2. 論文標題 Political Turbulence and Stalemate in Contemporary Malaysia: Oligarchic Reconstitution and Insecurities	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 TRaNS	6. 最初と最後の頁 227 - 251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Khoo Boo Teik	4. 巻 Vol.7, No.3
2. 論文標題 Introduction: A Moment to Mull, a Call to Critique	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 271 - 280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/seas.7.3_271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Khoo Boo Teik	4. 巻 Vol.7, No.3
2. 論文標題 Borne by Dissent, Tormented by Divides: The Opposition 60 Years after Merdeka	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 471 - 491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/seas.7.3_471	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobuhiro Aizawa	4. 巻 Vol.65, No.2
2. 論文標題 Beyond the Non-Interference dilemma: ASEAN and The Indonesian leadership on regionalism	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Australian Journal of Politics & History	6. 最初と最後の頁 412 - 429
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajph.12590	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 47
2. 論文標題 研究展望 21世紀のフィリピン政治研究 構造から制度、制度から人、人から地域へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東南アジア 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 68 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hau Caroline S.	4. 巻 65
2. 論文標題 Did Padre Damaso Rape Pia Alba?: Reticence, Revelation, and Revolution in Jos? Rizal 's Novels	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Philippine Studies: Historical and Ethnographic Viewpoints	6. 最初と最後の頁 137 ~ 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/phs.2017.0014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takagi Yusuke	4. 巻 38
2. 論文標題 Policy coalitions and ambitious politicians: A case study on the Philippine social policy reform	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Philippine Political Science Journal	6. 最初と最後の頁 28-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木祐輔	4. 巻 86
2. 論文標題 フィリピン・ドゥテルテ政権の政治 民主化後の政治発展とエンドサ連合	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アスティオン	6. 最初と最後の頁 45-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木祐輔	4. 巻 665
2. 論文標題 ドゥテルテ政権の外交政策 フィリピンにおける親アジア路線の模索と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼丸武士	4. 巻 191
2. 論文標題 近代アジアにおける越境する革命家の「旅」と都市	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 64-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相沢伸広	4. 巻 656
2. 論文標題 ジョコウィ=インドネシア政権の国内政治とASEAN外交	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Caroline S. Hau
2. 発表標題 The Dovie Beams Affair and Its Consequences
3. 学会等名 Plenary Panel, Bridging Worlds, Illuminating the Archive: An International Conference in Honor of Professor Resil B. Mojares (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Caroline S. Hau
2. 発表標題 Edel Garcellano, the Critic in a Time of War
3. 学会等名 First Edel Garcellano Conference on Culture and Literature (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Khoo Boo Teik
2. 発表標題 From Dissent to Power: Malaysia's Opposition and the General Election of May 9, 2018
3. 学会等名 Seminar presented at the Graduate School of Asia-Pacific Studies, Waseda University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Khoo Boo Teik
2. 発表標題 Last Stand and Finest Hour? Mahathir Mohamad and the Malaysian General Election of 2018
3. 学会等名 Seminar presented at the School of Business and Governance, Murdoch University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Khoo Boo Teik
2. 発表標題 Mahathir Mohamad at Malaysia ' s 14th General Election
3. 学会等名 Seminar presented at the Asia Research Centre, Murdoch University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Khoo Boo Teik
2. 発表標題 Viewing the Belt and Road Initiative from a Mahathirist Imaginary
3. 学会等名 International Conference on The Political Economy of the Belt and Road Initiative: Perspectives from Southeast Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高木佑輔
2. 発表標題 「サンフランシスコ体制」の形成：占領から講和へ、フィリピンからみる「サンフランシスコ体制」 - フィリピン外交を支える3つの理念
3. 学会等名 国際問題研究所シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yusuke Takagi
2. 発表標題 Policymaking without Stable Party System: Revisiting the Fidel V. Ramos administration and its legacies
3. 学会等名 The 4th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yusuke Takagi
2. 発表標題 Democracy in Asia: The Case of the Philippines
3. 学会等名 Symposium: Democracy in Asia: Building Sustainable Institutions and Practices in Turbulent Times (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Indonesia 's new political front line of Chinese Foreign Labor
3. 学会等名 THE 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON CHINESE-INDONESIAN STUDIES ((国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nobuhiro Aizawa
2. 発表標題 Chinese Foreign Labor in Indonesian Politics
3. 学会等名 International Society for the Study of Chinese Overseas (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Takashi Shiraishi, Tetsushi Sonobe (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer Open	5. 総ページ数 177
3. 書名 Emerging States and Economies: Their Origins, Drivers, and Challenges Ahead	

1. 著者名 Caroline S. Hau	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Ateneo de Manila University Press	5. 総ページ数 196
3. 書名 Interpreting Rizal	

1. 著者名 Yusuke Takagi, Veerayooth Kanchoochat and Tetsushi Sonobe (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer Open	5. 総ページ数 185
3. 書名 Developmental State Building: The Politics of Emerging Economies	

1. 著者名 Caroline Hau	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Ateneo de Manila University Press	5. 総ページ数 398
3. 書名 Elites and Ilustrados in Philippine Culture	

1. 著者名 Khoo Boo Teik, Keiichi Tsunekawa and Motoko Kawano, (eds.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 309
3. 書名 Southeast Asia Beyond Crises and Traps: Economic Growth and Upgrading	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	相沢 伸広 (Aizawa Nobuhiro) (10432080)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	高木 佑輔 (Takagi Yusuke) (80741462)	政策研究大学院大学・政策研究科・准教授 (12703)	
研究分担者	クー ブー・テック (Khoo Boo Teik) (10599385)	政策研究大学院大学・政策研究科・名誉教授 (12703)	
研究分担者	H A U Caroline・Sy (Hau Caroline Sy) (70314268)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授 (14301)	
研究分担者	鬼丸 武士 (Onimaru Takeshi) (80402824)	九州大学・比較社会文化研究院・教授 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関